

<特集>暮らしの中のプラスチックについて考える

6月は
環境月間

なぜ今、プラスチックごみが問題なの？



マイクロプラスチックを探す子どもたち

蓼川に流れ着いたごみ

私たちの暮らしに欠かせなくなっているプラスチック。環境省によると、日本では年間約940万tのプラスチック廃棄物に対し、リサイクルされているのは24.8%です(2013年)。世界では回収されず海に流れ込むプラスチックごみは年間少なくとも800万t、このままでは2050年には海洋中のプラスチックごみの量が魚の量を上回るともいわれています。プラスチックごみが原因で

生物へ悪影響を与えている事例もあります。身近な環境から地球環境への関心を高め、環境にやさしい暮らしを実践する「環境月間」の機会に、プラスチックごみについて考えてみませんか。市では同月間に合わせ、省エネに取り組む「あやせエコっと21推進キャンペーン」を行います。
環境保全課 ☎70・5619、リサイクルプラザ ☎70・5667

茅ヶ崎の海岸で子どもたちと見つけたマイクロプラスチックごみ

市内を中心に環境問題解決に取り組むNPO法人ふるさと環境市民代表の西壽子さんにインタビューしました。「平成30年8月、鎌倉市の海岸に打ち上げられ死んでいたクジラの赤ちゃんの体内から、たくさんのプラスチックごみが見つかりました。これらは道路などにポイ捨てされるなどしたプラスチックごみが風や雨によって川を経由し海に流れ込んだものです。プラスチックごみはやがて波や紫外線によって粉々の破片となり、直径5mm以下の小さなマイクロプラスチックとなります。

マイクロプラスチックは自然界で分解されないため、餌と間違えて魚や鳥が食べ、人間の体内にも吸収されている可能性があります。3月29日、市内の小学生とともに、茅ヶ崎市の海岸でマイクロプラスチックを探しました。たちまちさまざまなプラスチックが集まり、身近なものがたくさん海に流れ込んでいる様子が分かりました。参加者は拾い集めたプラスチックを瓶に入れて持ち帰り、家族や友達に話してくれたと思います。世界中で大問題となっている海洋汚染は、海のない綾瀬市でも他人事

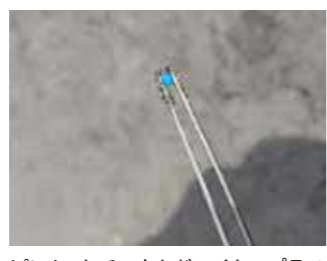
ではありません。皆さんで考える機会を持っていただけのように、NPO法人ふるさと環境市民では出前講座も行っています」
URL <https://www.furusato-kankyo.com>

人体への影響が心配 決して無関係ではありません

プラスチックには化学物質を吸着しやすい性質があります。海にすむ生物が誤って食べたマイクロプラスチックは体内に蓄積され、その生物を食べた別の生物の体内にも蓄積されていきます。具体的に生物の体にどのような影響を及ぼすのかは、各地で研究が進められているところですが、食物連鎖をとおして、人体への影響も心配されています。



釣りで見つけた疑似餌(ルアー)もごみに



ピンセットでつまんだマイクロプラスチックごみ



海岸で子どもたちが拾い集めたマイクロプラスチックごみ

いま私たちにできることはなんだろう？

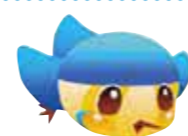
暮らしに欠かせないプラスチック製品をなくすことはできませんが、リサイクルしたり、使用量を減らしたりすることはできます。

使ったものをリサイクルする

- 資源化できそうなプラスチックは、リサイクルできるように水で洗って資源物として出そう
- 不要になったプラスチック製品をネットオークションサイトに出品して再使用できる人に回そう
- ごみは持ち帰り分別しよう

使用量を減らす

- プラスチック製品を買わず、紙などの代替素材のものを選んでみよう
- マイ箸やマイボトルを日頃から持ち歩こう
- 直して使えるものは修理しよう



ごみの分別はどうして必要なの？

長期間にわたりごみを焼却するためには、ごみの量を計画的に管理し、焼却炉の負担を軽減する必要があります。大量のごみを焼却すれば二酸化炭素(CO₂)の排出量も増えるため、地球温暖化の原因にもなります。

可燃ごみの中にある資源化できるプラスチックを分別することで、可燃ごみの焼却量が減り、ごみ処理費用の削減や、焼却炉の負担を軽減して長く使うことができます。また、焼却時のCO₂排出量も減り、地球温暖化対策にもつながります。

分別された資源化できるプラスチックは、石炭の代わりに使われる固形燃料など大切な資源として生まれ変わり、再利用することができます。

資源化できるプラスチックは分別されれば貴重な「資源」ですが、分別しないとただの「ごみ」です。

貴重な資源になるプラスチックをそのまま焼却することは、もったいないと思いませんか。

リサイクルプラザからのお願い!



令和元年度の綾瀬市の可燃ごみ総排出量は約1万9543tで、1人1日当たり約635gになります。

ごみの種類とその割合の調査(ごみ組成調査)結果によると、この可燃ごみ約635gの中に約76gのプラスチックが混入していることになりました。これを年間で計算すると、1人当たり約28kgで、市全体では約2362t、シロナガスクジラ約23頭分にあたります。

市民の皆さんには、日頃から分別にご協力をいただいておりますが、もう一度、分別の点検をお願いします。詳しい分別方法は平成29年3月に配布された「資源とごみの分け方・出し方ガイドブック」を見てください。市ホームページにも掲載しています。



平成28年度綾瀬市家庭系可燃ごみ組成調査